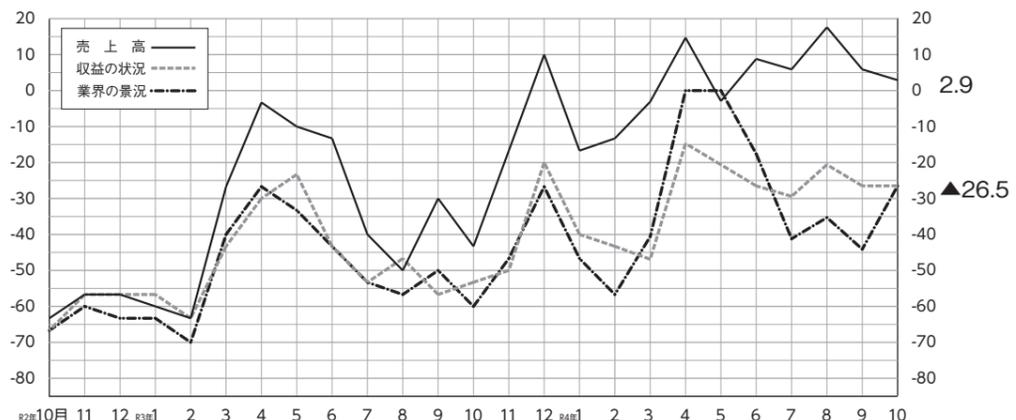


DI(景気動向指数)

情報連絡員報告



業界の状況

- …好転
- …やや好転
- …不変
- …やや悪化
- …悪化

	なし
--	----

	<b>コンクリート製品</b>	昨年度の繰越工事の出荷も少しはあり、令和4年10月分は前年同月よりやや好転した。今後、出荷量が増加する時期であるので期待したい。
	<b>青果卸売</b>	販売価格の上昇により売上高は前年対比で約2割近く増加しているが、仕入原価も上昇しているため収益状況は変化なし。新型コロナウイルスの影響に関しては、業務関係で週末には多少人も出も増えてきたが、平日はまだまだ。
	<b>電気機械器具小売</b>	全商品平均で101.3%。前年同期より少しアップした。工事部材などの価格高騰で収益は厳しい。
	<b>商店街(四万十市)</b>	飲食業や観光向け支援・地域振興券を持った県外客を多く見かける。全ての店で使えるわけではないが好評のようだ。会議後の懇親会等も再開されはしめた。
	<b>旅館・ホテル</b>	県観光リカバリーキャンペーンに加えて、12月20日まで全国旅行支援が実施されるため、期間中の予約状況は好転の見通したが、終了後の強力な反動が予想される。10月は様々な商品・物品の値上げが相次ぎ、売上原価、販売管理費の上昇傾向がより鮮明となった。
<b>飲食店</b>	本月は感染者が激減し、人心が落ち着き人流が増加した。前年同月比で景況は好転、例年と比較しても(コロナ禍以前)売上は8割程度まで回復したが、光熱費や仕入価格が高騰しているため収益的には相殺されている感がある。やはり業態により売上に大きな差がある。新型コロナウイルスの影響による集客減、売上の低下はまだ続いており、今後は業界(県内事業主)の規模が縮小する恐れがある。	

	<b>食品団地</b>	10月度の市況は、足踏み状況。コロナ禍の影響は低下。エネルギーコストである電気代、ガス代等の上昇によって販売価格は上昇気味であるが、収益状況は悪化している。先行きの見通しが悪材料ばかりで今後の経営状況が心配される。
	<b>テントシート</b>	コロナ禍ではあるが、各種イベント開催がされるようになり、イベント関連主力の事業所も活気が戻りつつある。しかし、まだまだ厳しい状況。
	<b>製材</b>	市況は全般的に弱含み推移であるとの声が多かった。
	<b>刃物製造</b>	今年は3年ぶりの刃物まつりも開催され、待ちに待っていた方もおられ、思いの外売上が上がり、昨年度を上回ることができた。
	<b>船舶製造</b>	生産状況は高水準が続いている。中途採用で数名人員が増えている。
	<b>珊瑚装飾品製造</b>	10月の取引額は前年同月比86%と、依然として低調であり、回復の兆しは見えない。
	<b>卸団地</b>	・仕入商品価格の上昇、また、電気代、油代の値上げによる収益の悪化。・外食、観光業の動きは出てきたので売上は戻りつつあるが、全体的な経費増により、結果的に売上が不足。新型コロナウイルスに関しては、売上減少、社内でのコミュニケーション不足などの影響が出ている。
	<b>生鮮魚介卸売</b>	売上については、前年度よりは上昇。カツオ・マグロ等は順調に入荷が有るが、仕入単価が上昇している。
	<b>各種小売(土佐市)</b>	新型コロナウイルスは落ち着いたようにも見えるが、各小売店ではひまな状況が続いている。飲食業に関したら、昼間は少し人が動きだしている様子。いつコロナ前に戻ってくれるのか。年末には第8波とインフルエンザの流行も心配されている為、元気がない。

	<b>中古自動車小売</b>	中古車市場の流通不足や新車納期の長期化が続く不透明な状況だが、地場でのオークションを開催。高年式車の取引が軽・普通車ともに活発に動いており取引金額、成約率も増加。ロープライスも殆ど成約となり、近年にない高成約の取引結果となった。
	<b>商店街(高知市)</b>	中央公園地下駐車場 売上前年比:115.9%、利用台数前年比:113.2%。週末は観光客やイベントもあって人出は回復しつつあるが、平日はまだまだの状況にある。
	<b>旅行業</b>	組合クーポン前年同月対比93%、全旅クーポン加味して341%。全国旅行支援事務処理に追われ、電子クーポンで手軽に発行可能な全旅クーポンを利用する傾向に、歯止めがきかない。組合クーポン利用離れは今後も続く傾向。
	<b>IT事業</b>	大型案件についての相談がやや減っているように見受けられる。慢性的な人材不足は続いており、需要過多の状況は続いているとみられる。今後、補助金を使った相談案件は増えていくものと思われる。
<b>クリーニング</b>	リモートワークなど生活スタイルの変化が定着してきており、人の動きも出始めてきたが、需要を押し上げるには至っていない。販売価格改定も進んでいるが改定は1回限りのことが多く、度重なるエネルギー価格、資材費の上昇には対応できていない。新型コロナウイルスの影響としては、行動変容が進み、コロナ前の需要には届かない。今後は行動変容が定着し、新たな戦略が必要となる。	

	<b>酒類製造</b>	先月の値上げ前仮需も影響か。(売上高の減少は)懸念されていたことではあるが今月の数字に多少現れたと思われる。
	<b>木製品素材生産</b>	全体的に値下がり傾向で、特にヒノキについては値下がりしてきている。また、製品(3m材・4m材)によって価格差が出ている。入荷量は、前月とあまり変わらない状況であり、販売量は確保できているが、今後(年末)に向けても厳しくなると思われる。新型コロナウイルスは減少してきており、コロナによる木材価格への影響は少ないと思われるが、先行きはわからない。
	<b>建具</b>	仕事量が少ない。職人さんの高齢化が進んでいる。ウッドショックの建材、品薄が続いている。新型コロナウイルスの影響で飲食業からの発注が少ない。
	<b>製紙(家庭紙)</b>	例年(コロナ前)なら、行楽シーズン、年末に向けての荷動きが活発になる時期ではあるが、今年は厳しい状況が続いている。価格転嫁交渉が、十分に進んでいない模様。
	<b>製紙(手すき和紙)</b>	まだまだコロナ禍や原材料の高騰・円安に伴い、取引先に価格交渉をしているが、なかなか厳しく、一向に景気が良くならない状態が続いている。新型コロナウイルス・原材料高騰・円安といつまで続くのか見当もつかない。
	<b>印刷</b>	売上については価格改定により現状維持か。設備操業度は低下、県外需要は業種によるが昨年同等、県内需要は昨年参議院選挙特需の影響も有り全体として低下した。又用紙等の再度価格改定もあり、厳しい状況が継続すると思われる。
	<b>生コンクリート製造</b>	10月単月の出荷数量は、対前年比72.6%、4月からの累計出荷量は81.8%で地区的には前月同様に高幡地区を除き全県下で減少傾向が続いている。生コン価格は、前月に引き続き協議・検討中。
	<b>機械団地</b>	団地内の業況は、横ばいで推移している。一部に電気料金の高騰や製品需要が低下する季節的な要因により、収益悪化を招いているとする事業所がある。
	<b>ガソリンスタンド</b>	ロシアのウクライナ侵攻も継続している。また円安により、原油価格は高止まりが続いている。10月は新型コロナウイルスの感染が落ち着きをみせ、旅行者も増えており、経済は少しずつ動き始めている。政府による燃料油価格激変緩和事業の補助期限は12月末より更に令和5年9月末まで延長となったが、1月から5月までに段階的に補助額上限35円を25円に緩やかに引き下げる見込みで実質毎月1~2円程の値上げとなる予想である。それに原油価格や為替の影響を受けることになる。現状の市況価格については毎週原油価格は上下するものの補助金の影響もあり市況が動くほどの価格ではない。新型コロナウイルスの影響に関しては、感染者は減ってきたが販売数量は感染前には戻らない。
	<b>商店街(安芸市)</b>	10月16日(日)に商店街の空き店舗を活用し「高校生マルシェ」が開催された。このイベントは、安芸市中心商店街等振興計画で誕生した「商店街魅力向上委員会」が企画。バザーや縁日、キッチンカーの出店など、高校生が中心となって運営を行った。10月30日(日)には、8月に延期となっていた花火大会が開催された。商店街を通り花火大会の会場へ向かう子ども達にハロウィンのお菓子を配った。配ったお菓子は商店街や地域の方々に寄付を頂いた。コロナ禍でイベントがあまり行われていなかったため、多くのお客様に楽しんで頂けた。
<b>一般土木建築工事</b>	令和4年10月分の公共土木用生コン出荷量は、前月比107.9%、前年同月比72.6%。令和4年4月から令和4年10月累計においては前年累計対比81.8%。10月の工事請負金額は前年同月比で102.50%、前年対比累計金額では83.6%。令和4年10月末時点の前年対比累計請負金額は、国:83.1%、高知県:同累計69.5%、市町村:同累計98.0%となっている。生コン出荷量、工事請負金額共に累計では落ち込んでいるが、災害復旧工事、防災・減災対策工事、高速道路の延伸工事などの大型工事は継続している。生コンクリート単価については、引き続き値上げ交渉を行うことと共販率上昇に向けた取り組みを当組合としてもできることを行っていく。共販率の引き上げに苦慮している。来年早々予定の生コンクリート価格引き上げについては、高知市内は相変わらず、難航予想。その他の地区については、概して引き上げに理解を得ている。	
<b>電気工事</b>	組合員の施工する電力引込線工事は、前年同月比71.8%となった。高知中央地区が対前年比58.5%と大幅に減少した。	
<b>一般貨物自動車運送</b>	燃料価格は原油価格の落ち着きにより値下げへの期待感があつたが、円安の影響は大きく、10月の軽油週決め価格は高下し、トータルではほぼ前月価格から横ばいの高値となった。コロナの影響による物量の低下は続いており厳しい状態が続いている。また、新型コロナウイルスの影響で荷動きが悪く売上が伸びない。荷動きが戻らなければ収益が落ち、経営を圧迫する。	

	<b>タクシー</b>	実働1日1車当りの前年同月比営業収入:145.9%、輸送回数:141.0%、実働率は51.1%。1日当たりの実績は前年同月より回復傾向だが、実働率が悪く(運転者不足)総収入が増えず、経営状況はまだまだ厳しい。
--	-------------	--